

一般質問

市政のいまを問う

この定例会では6月3日・4日・5日の3日間に、11人が登壇し、27項目にわたり、市政についてたまたま一般質問が行われました。一人一項目を要約し、掲載します。

一般質問項目（発言順） ※印が掲載した項目です。

- 新 村 健 治 議員
 - ※1 教育行政について
 - 2 市内巡回バス（公共施設連絡バス）の充実について
 - 3 ブラック企業・ブラックバイトの根絶について
- 新 海 真 規 議員
 - ※1 歩道と街路樹の管理について
 - 2 保護司と民生児童委員について
- 上 田 昌 哉 議員
 - ※1 これからの介護について
 - 2 これからの公共施設の在り方について
- 沖 野 温 志 議員
 - ※1 刈谷のまちづくりについて
 - 2 刈谷市のスポーツ振興について
- 中 嶋 祥 元 議員
 - ※1 通学路の安全対策について
 - 2 刈谷市子ども・子育て支援事業計画について
- 鈴 木 浩 二 議員
 - ※1 刈谷市子ども・子育て支援事業計画について
 - 2 スポーツ施設について
- 山 本 シ モ 子 議員
 - 1 市営住宅新設・増設計画について
 - 2 住宅リフォーム助成制度実施について
 - 3 洲原温水プール内で起きた事故の被害者への謝罪について
- 星 野 雅 春 議員
 - ※4 平和行政について
 - 1 市民の健康増進施策について
 - 2 起業化支援のあり方について
- 佐 原 充 恭 議員
 - ※1 平成27年度重点要望（障害福祉分野）について
 - ※2 機密管理と情報セキュリティについて
 - ※3 未来に向けた諸施策について
- 野 村 武 文 議員
 - ※1 銀座地区整備の経緯と見直しについて
 - ※2 介護保険制度見直しの現状と展望について
 - 3 刈谷城築城の是非について
- 白 士 美 恵 子 議員
 - ※1 消防団について
 - 2 子どもへの貧困について
 - 3 認知症について

一般質問のすべての質問・答弁がホームページから映像でご覧になれます。「刈谷市議会」で検索し、「議会映像をみる」をクリックしてください。

新 村 健 治 議員

近隣市にならない、少人数学級の拡大実施の検討を ―国や県の動向に問い、きめ細かい指導の充実を図っていく―

【問】 OECD諸国の中で日本の教員が最も多忙感を抱いているという最新のデータがあり、このことは教育環境の悪化にもつながると考えられている。少人数学級の取り組みに関して、市はどのように考えているか。

【答】 学級規模の適正を考えると、教員や活動内容によって少人数だと意見が多様化するという側面がある。学習面や生活面において、児童・生徒に身につけてもらいたい力に応じた規模となるよう、柔軟に対応し、推移を見守っていきたくと考えている。

新 海 真 規 議員

近隣市にならって、少人数授業の様子

【問】 近隣市にならって、少人数授業の様子

【答】 子どもたちへの教育は未来への責任であり、少子化対策としても重要な課題である。市として少人数学級を実現するための努力はしている。

【問】 国や県の動向を見守るとともに、既に少人数学級を導入している先進市の取り組みを中心に調査研究を進めていく。今後は教員の多忙化解消と子どもたちへのきめ細かい指導の充実に向けて、少人数授業の活用を図っていきたく。



少人数授業の様子

新 海 真 規 議員

市民の善意に甘えない街路樹対策を ―定期的な剪定を行うほか、要望に応じて随時対応する―

【問】 市民が善意で、街路樹の落ち葉清掃を実施してみえるのは本当に頭が下がっていると思える。また市民協働としていい姿であると認識しているが、加齢とともに清掃を苦痛に感じている人や、枯れ葉が屋根の雨どいに詰まること業者に清掃を頼む人などの話を聞いている。街路樹の落ち葉対応の現状はどうか。

【答】 落葉時期の前に剪定を行うなど落ち葉の量を軽減を図つ

上 田 昌 哉 議員

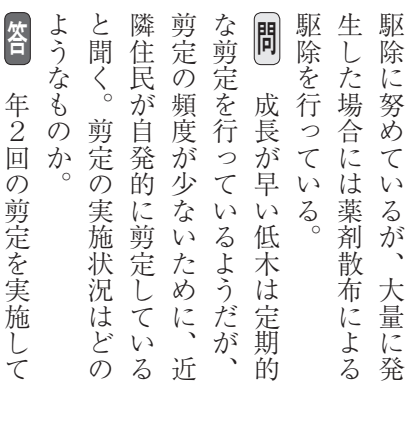
これからの介護に、地域やボランティアとの連携を ―多様なサービスが提供できるよう連携を進めていく―

【問】 本市の人口動態や、製造業の海外シフトによる雇用減少等を考えると、今後高齢化はさらに進む、社会保障費は上がる予想される。高齢化率と行政が行う介護サービスの費用をどう推測しているか。

【答】 第6期刈谷市介護保険事業計画では、平成37年度の高齢化率は20.6%、総給付費は約96億円と推計している。

【問】 高齢者福祉にとって大切なものは何であると考えているか。また、そのことを踏まえ、市としてどう対応していくのか。

【答】 高齢者が病気や要介護状態となっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを続けられることが大切であると考える。そのため、医療、介護、予防、住まい、生活支援が地域内で一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進めている。



剪定の行き届いた街路樹

上 田 昌 哉 議員

このからの介護に、地域やボランティアとの連携を ―多様なサービスが提供できるよう連携を進めていく―

【問】 制度改正により要支援認定者のデイサービス等は、地域支援事業の訪問型や通所型サービスとして提供される。このサービスは、既存の介護事業所のほかNPOやボランティアが担い手となるため、多様なサービスが提供できるよう地域やボランティアとの連携を進めていく。他の機関との連携についてどう考えているか。

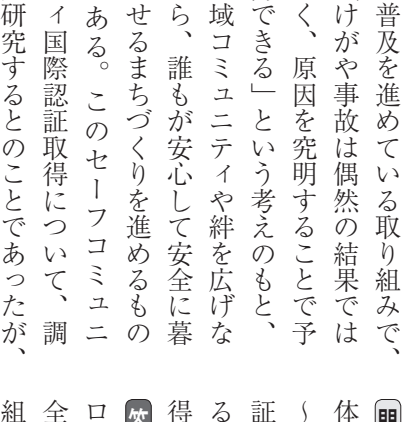
【答】 地域包括ケアシステムの構築に向け、関係団体との連携は重要である。今後も社会福祉協議会等の関係団体との連携・協力体制の強化に努めていく。

沖 野 温 志 議員

セーフコミュニティ国際認証の取得を ―他市の取り組みなど情報収集し検討していく―

【問】 セーフコミュニティは、WHO（世界保健機関）が提唱し普及を進めている取り組みで、「けがや事故は偶然の結果ではなく、原因を究明することで予防できる」という考えのもと、地域コミュニティや絆を広げながら、誰もが安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるものである。このセーフコミュニティ国際認証取得について、調査研究するとのことだったが、その結果はどのような状況か。

【答】 主に国内の認証取得または認証に向けて活動中の自治体の取り組みを調査研究してきた。国際認証の取得は、安全なまちづくりの推進に加え、まちのイメージアップや地域ブランド力の向上など一定の効果も期待できるとしている。今後安心・安全なまちづくりの重点的に取り組むとともに、セーフコミュニティ国際認証の取得についても他市の取り組みなど情報収集し、検討していく。



トップアスリートによるスポーツ教室

中 嶋 祥 元 議員

刈谷の子どもたちが世界の舞台上活躍できる環境整備を ―小学校への派遣指導などホームタウンパートナー制度を充実―

【問】 新しく整備している逢妻川河川敷の今後の利用方法はどのようなになっているか。

【答】 (仮称)逢妻川河川敷運動広場については、県が逢妻川洪水調節地として整備をし、市がその上部を利用して、サッカー場、多目的広場、駐車場等を整備していきたくと考えている。

【問】 全国レベルと世界レベルの選手育成について、全国レベルのチームが多く存在する本市で子どもに夢を持ってもらう方策をどのように推進しているか。

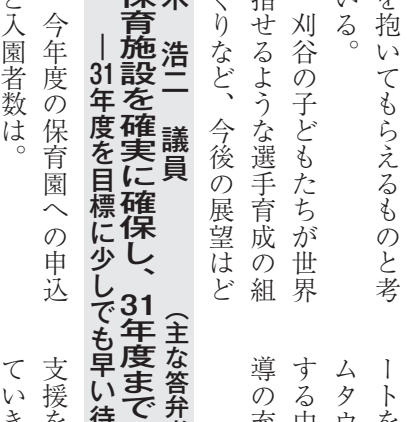
【答】 全国大会、国際大会等に出場するチーム・選手に対して、激励金の支給や優秀な成績をお

山 本 シ モ 子 議員

安全保障法制の整備と憲法9条について ―恒久平和の確立に向けた平和行政の取り組みを進める―

【問】 本年1月1日に平和首長会議に加盟したことは心から喜びあうものである。加盟したことにより、今後の取り組みについてどのように考えているか。

【答】 広島で開催される平和記念式典（8月）及び平和首長会



安全保障法制の整備と憲法9条について

山 本 シ モ 子 議員

安全保障法制の整備と憲法9条について ―恒久平和の確立に向けた平和行政の取り組みを進める―

【問】 本年1月1日に平和首長会議に加盟したことは心から喜びあうものである。加盟したことにより、今後の取り組みについてどのように考えているか。

【答】 広島で開催される平和記念式典（8月）及び平和首長会

星 野 雅 春 議員

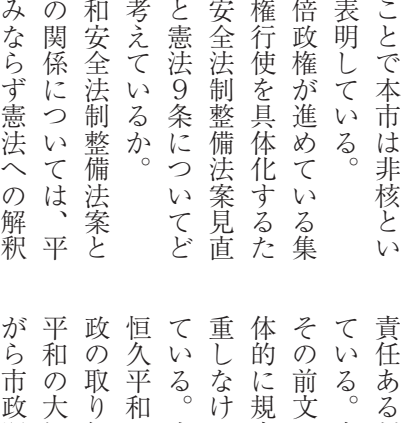
本市の人口構成に問題意識を持ち、女性が働きやすい環境整備を ―さまざまな視点を取り入れ、多様性を実現することが重要―

【問】 本市の25歳から34歳の人口構成を見ると、男性1万3,187人、女性9,621人と男性が多い状況にある。これは、ものづくりのまちである本市の特色であるが、市の見解はどうか。

【答】 本市の人口構成は、18歳から30歳代後半にかけて、男性が女性より多い傾向にある。この傾向は、製造業が基幹産業であるこの地域の特色と捉えている。

【問】 女性が働きやすい環境を整備し、働ける場所を増やすことが、本市が抱える人口構成の問題解決に繋がると考える。その方策の一つに、女性自身が、女性の働きやすい会社を創ることが挙げられる。女性の起業が問題解決に一定の効果を与えると考えられるが市の見解はどうか。

【答】 女性が働きやすい職場環境づくりには、女性に限らず、男性、障害者、高齢者、外国人などさまざまな視点を取り入れ、職場における多様性を実現する



創業支援に対する取り組み

星 野 雅 春 議員

本市の人口構成に問題意識を持ち、女性が働きやすい環境整備を ―さまざまな視点を取り入れ、多様性を実現することが重要―

【問】 本市の25歳から34歳の人口構成を見ると、男性1万3,187人、女性9,621人と男性が多い状況にある。これは、ものづくりのまちである本市の特色であるが、市の見解はどうか。

【答】 本市の人口構成は、18歳から30歳代後半にかけて、男性が女性より多い傾向にある。この傾向は、製造業が基幹産業であるこの地域の特色と捉えている。

【問】 女性が働きやすい環境を整備し、働ける場所を増やすことが、本市が抱える人口構成の問題解決に繋がると考える。その方策の一つに、女性自身が、女性の働きやすい会社を創ることが挙げられる。女性の起業が問題解決に一定の効果を与えると考えられるが市の見解はどうか。

【答】 女性が働きやすい職場環境づくりには、女性に限らず、男性、障害者、高齢者、外国人などさまざまな視点を取り入れ、職場における多様性を実現する